

令和2年6月

普及活動報告



生育状況や病害虫の有無を確認

伏見とうがらしの出荷安定に向けて ～京丹波町の栽培ほ場を巡回～

(京丹波町：5/26、6/2・3・5日)

新型コロナウイルス感染拡大防止により、生産者が一堂に会する研修会が開催できないため、JAの営農指導員とともに京丹波町全域のほ場を巡回し、今後の栽培管理や出荷に関する資料を配布するとともに、誘引・整枝方法や病害虫防除、生理障害対策等のポイントを助言しました。

一部ほ場でアブラムシ類やアザミウマ類、尻腐れ果などを確認し、病害虫の適期防除や予防的な対策を呼び掛けました。今年度は、定植後の低夜温や乾燥少雨の影響もあり、草丈はやや低めですが、節数は確保できているところが多く、生育は概ね順調です。

場 所 京丹波町全域

令和2年度京丹波町伏見とうがらし栽培者：44名（うち新規4名）、面積：約150a

令和2年6月

普及活動報告



関係者で研修状況を確認



ほ場状況（ナス）

夏秋野菜の栽培技術習得に向けて ～担い手養成実践農場を巡回～

（亀岡市：2日）

就農開始に向けて技術研鑽中の実践農場研修者を、市役所、農業会議、普及センターの3者で巡回し、状況確認を行いました。ほ場には、ナス、キュウリ、甘長トウガラシ等多くの夏秋野菜が栽培されており、実践農場指導者から今後の栽培及び経営について丁寧な指導が行われていました。

好天に恵まれ、作物の生育は順調でした。普及センターからは果菜類の整枝方法やかん水方法を中心に説明しました。研修生の1名は、本年8月に就農開始の予定です。

場 所 亀岡市篠町、馬路町
出席者数 8名

令和2年度南丹管内の実践農場は4農場（亀岡市2農場、南丹市1農場、京丹波町1農場）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告

実需者を交えた現地巡回 ～小麦「せときらら」の収穫期を迎えて～

(亀岡市・南丹市：4日)



本年産の作柄状況等を生産者及び関係者から報告

実需者と関係機関で小麦の現地ほ場を巡回視察し、本年産の収穫時期や作柄について情報共有しました。実需者からは品質確保や今後の生産拡大への期待が述べられ、生産現場からは赤かび病防除の徹底、実肥の励行や施肥技術の改善など品質確保に取り組む姿勢を伝えました。

栽培品種が「せときらら」に替わり、実肥施用が生産者の負担となっています。普及センターは、緩効性肥料を利用した施肥量の低減等、良質小麦の安定生産技術の確立に向けて支援していきます。

場 所 亀岡市河原林町、
南丹市八木町

出席者数 16名

令和2年度 亀岡の小麦新品種「せときらら」栽培面積：約7ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告



手分けしての定植作業



定植後の苗

～緑肥作物、微生物の力で土壌伝染性病 害に備える～黒大豆の黒根腐病・白絹病 現地対策試験ほを設置

(南丹市：10日)

黒根腐病及び白絹病の発病抑制に効果が期待される微生物資材を培土に混和して育苗した苗と無処理育苗の苗を、それぞれの区割りを確認しながら定植しました。

翌週には、微生物資材と同様に両病害に対して発病抑制効果が期待されている緑肥作物「こぶ減り大根」をすき込んだ別のほ場に、黒大豆を定植しました。

今後、微生物資材及び緑肥作物による発病抑制効果などを調査する予定です。

場 所 日吉町四ッ谷
出席者数 10名

秋田県立大学、タキイ種苗(株)、朝日工業(株)、(株)秋田今野商店及び生物資源研究センターと共同で実施

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告



情勢等に耳を傾ける生産者



出荷規格、品質等を確認

特産キュウリの生産振興に向けて ～園部町産キュウリ出荷目合わせ会を開催～ (南丹市：12日)

6月に入りキュウリの出荷量が増加しつつあり、出荷規格や品質等を確認するため、目合わせ会が開催されました。

普及センターからは、今後注意を要する病虫害や生理障害、熱中症対策について説明しました。

参加者からは、「他の人の選別・箱詰めを見る機会は非常に勉強になる」との声が聞かれました。普及センターは今後、キュウリの良品生産に向けてJAとともにほ場を巡回し、助言・指導を行う予定です。

場 所 JA京都園部黒田支店
出席者数 24名

南丹市園部町 令和元年度キュウリ出荷量：約63 t

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告

京丹波町で初めての「祝」現地研修会を開催

(京丹波町：12日)



ソーシャルディスタンスを保ちながら熱心に研修

5月13日に定植された祝の栽培ほ場において、生産者から栽培概要の説明を受けた後、中干し開始の目安となる茎数12～13本/株の生育状況を確認しました。

研修では、「祝」の品種特性を踏まえ、きめ細かな水管理や病虫害防除について説明しました。

中干しの開始時期が理解され、タイムリーな研修となりました。参加者は熱心に情報交換を行い、出荷団体からも新たな「祝」生産地として大きな期待が寄せられています。普及センターは今後も、酒米としての品質を確保しつつ、目標収量が確保できるよう支援していきます。

場 所 京丹波町塩田谷
出席者数 14名

令和2年度京丹波町内栽培面積：4.13ha 生産者：8戸（組織・個人）
※同町内での「祝」栽培は今年度が初めて

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告

小豆・黒大豆栽培のポイント等をケーブルテレビを通じて発信 ～京丹波町～

(京丹波町：18日)



収録の様子

今年2月29日に開催予定であった「小豆・黒大豆生産者大会」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、説明できなかった内容をケーブルテレビにて町内生産者に広く伝えることとなりました。普及センターからは、令和元年産小豆・黒大豆の栽培概要や調査研究結果を踏まえ、今後の管理のポイントを説明しました。

放送は、京丹波町全域に向け6月27日(土)から1週間にわたって行われました。今後も普及センターは様々な手段を用いて、栽培技術や管理のポイントを伝えていきます。

京丹波町における黒大豆栽培面積62.4ha、小豆栽培面積26.1ha(令和元年度)

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告

ネギの病害虫の見分け方と防除方法を確認～ネギ生産法人従業員研修会を開催～

(18日)



ネギの主要な病害虫について説明

栽培上問題となっているネギの主要な病害虫の特徴や生態及び防除のタイミングや方法、似ている被害症状の見分け方について写真入りの資料や実際のサンプルを見ながら説明しました。

「べと病の卵胞子は土中でどれくらいの期間生きているのか？発生を抑えるため秋に出来ることはあるか？」等、発生の多いべと病対策に関心が高く、今後はGAPの取得についても支援することとしています。

場 所 南丹市八木町

出席者数 9名



実際に発病株を見て特徴を確認

ネギ生産法人：平成26年5月創業（本社 亀岡市）

京都府南丹農業改良普及センター

令和2年6月

普及活動報告

ブランド出荷目合わせ会を開催 ～亀岡特産「賀茂なす」部会～

(亀岡市：25日)



秀品出荷された賀茂なす



JA担当者から規格について説明

ブランド出荷に向けて規格の目合わせを行いました。普及センターからは、腐り果、つやなし果(ボケ果)の発生に備えた今後の栽培管理のポイントや病害防除対策について説明しました。

当日は例年より少ない20ケースの出荷となりました。新型コロナウイルスの影響で料亭等との取引が減少する中、部会では一般家庭への消費拡大に向けた販売促進活動に取り組む予定です。普及センターは引き続き高品質生産に向けた栽培管理について支援します。

場 所 JA京都亀岡中部支店

出席者数 29名

令和2年度	栽培面積142.0a	生産者20戸
(令和元年度)	栽培面積142.9a	生産者21戸)